

吉晴の一生 紙芝居に

松江、安来両市の3公民館が松江開府の祖・堀内（内）の小学校や公民館で行う歴史学習に役立てる計尾吉晴（1543～1611年）を題材にした紙芝居の制作に取り組んでいる。松江城の築城までを中心に吉晴の一生を全4部作で紹介する。両市

松江城築城の功績描く

3公民館共同事業

準備を進めているのは、松江市の城西、雑賀西公民館と、安来市の広瀬公民館。松江城を題材に官民共同でふるさと学習を推進する松江市教育委員会の「国宝松江城授業化プロジェクト」の一環で昨秋、着手した。吉晴の出身地・愛知県大口町の町歴史民俗資料館の協力を得て、戦国時代を題材にした書籍や堀尾家に関する資料を参考に、制作を進めている。

城西公民館の森泰館長（73）が、紙芝居は語り手が聞き手の反応を見ながら、演じ方を自在に変えられるとし「間を取って、子どもたちに考えさせることができ、冊子より教材に向いている」と提案した。

物語は、関ヶ原の戦いの後、吉晴が月山富田城（安来市広瀬町）に入るまでを1部とし、2部で織田信長や豊臣秀吉に仕えた経緯を紹介する。3部と4部

3月完成 4部作 DVD化も計画



絵のサンプルを囲み、打ち合わせする関係者

で、吉晴が築城や城下町の形成に尽力した功績を振り返り、2015年に松江城天守が国宝指定されるまでを描く。

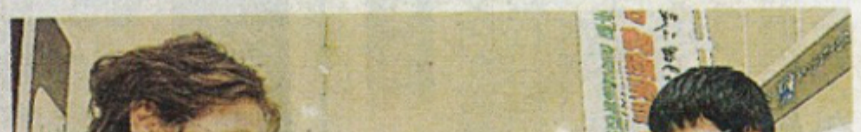
1ターで、松江武者行列のポスターを手掛けたタプチサトシさん（40）（本名・田淵悟史）が担当する。既に絵のサンプルは仕上がっており今後、物語を精査する。教員が教材として活用しやすいよう、時代背景や用語説明を記した資料を別に作成。紙芝居のDVD化にも取り組む。

森館長は「地域で積極的に活用し、子どもたちが歴史上の偉人と時代背景について教養を高められるようにしたい」と話した。

（佐々木一全）

全国総体「応援お願い」

出雲と松江 高校生 地元開催PR



7月下旬から中国5県開かれる全国高校総体（インターハイ）「中国総体を盛り上げようと、出雲内7校の高校生27人が、同市内のショッピングセンターで、寄託金を手渡した。寄託金は、同団が県内の福祉団体に寄付する。

同後援会は2005年、視覚障害者福祉施設を運営する島根ライトハウス（松江市宍道町西来）の支援を目的に設立された約200の法人・個人で構成されている。映画会は15月に松江、出雲両市で開催。同後援会はこのほか共同募金と島根ライト